逗留のよかりける書の定かりそめに一歩
より東をゝ川のたるくくやゝ書るをき　さて乃
宮ゝゝる色蝶と称るもあれと之の立地をとれ世下
ふかゝゝなんも本宮とおく宮居さに未北京矢善
やこさ二日の暮　ゆゝは　なの戸を出るといふ
なりて　知おとろくる似ゝり
　対北うやしなるなゝ家のもと　二月廿
巴陵もつき原りんと藤藤いうあゝく法く彩
あと称み見如える山やを川橋　巴陵
それ以上聖とを送りたるの物云うねく
ある所のゝ見いたくなき法ゝとて四日南小源
二十四日常名のあるを亭る桜ゝ

[illegible]ある巨鯨うち　坡

二十五日　船あるの乳の[illegible]く舟を沖ふかく出さしめ
三方眺　[illegible]ふり[illegible]の[illegible]とりて[illegible]死ぬ[illegible]
[illegible]と[illegible]と[illegible]
二十七日尾張の笠寺二河[illegible]
代第乃[illegible]　坡
[illegible]代やハ[illegible]時[illegible]　凌
二百八間の矢剥の橋[illegible]
遊中矢剥の[illegible]
二十七日二村山と中[illegible]ハ法[illegible]
国府の才二[illegible]
二十八日沒見坂[illegible]

東海道や[illegible]すか[illegible]流の也　坡
[illegible]の[illegible]井[illegible]
二十九日[illegible]
三月一日　日[illegible]
昔より[illegible]と云り
[illegible]海[illegible]り　坡
[illegible]山[illegible]
[illegible]
小板の中山の[illegible]
やう[illegible]川[illegible]の頸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　坡
[illegible]　凌
駿河[illegible]

二日 芳野の山うちさくさまの鶯哉
宿のとつけの梅さまをまねきたる新川の水の気
もかくる府中の志を機山の渓間の社を崇りて
三日 男も女もおのが角てなるべしめてたうをとる
いたるも節句の姿こそ
ほとゝぎす知る旅の皆数や岩の鏡 坡
神志浦こゝの杉原清水寺鶴ヶ岡をとるさ(面白)
天人の雖ハ見ぬ面影ハ海 乃 松 清
汐汲の梅ハ流れ寄きぬ 坡
薩埵山寺尾の高うり物めつらしき旅の人こゝも
飽て詠矣あり吉原ハ不二を見る頂乃
雲ハ蜃を乱せる似て山の腰をかよふ

三国峠ハ北を見ひあうり如あ(さいら)ふ山ハ
その山も不二をゝて物を掠う形 坡
四月伊豆北言の玄関ハ雲
川の岩を根の芦根山ハ
く面の事軸を掛 面の
引を面ハ形も本部
らうてすもとを 天狗
ふり巡塞の面ハ
ちうもて勝月のう
北面勝 ま
七月沼 ま
を志ま

六日 略立沢の西方(小物浦)より分れ出る
略立て行れば濁り沼ありて船 清
前沢の松切りなほふらるる
七日 沢の口なる高石に高岩穴あり
船神社 行ゆくほどなん怪岩老樹あり仙人堂をなす
ゆるやかに松ふる 数の 地 清
鎌倉の里 七里ヶ浜 鎌倉の浦横を不残 稲荷社
星月夜の井 初尾寺 大仏 長谷岡の八幡宮 建長寺
名のみ 鎌倉 北 北 ふるいふ 扁額 ゆゆしく 岩 動
ふるいハ木の ふる 沢
もゆるハ 黄乃海 ゆく 建長寺 地
八月 吉田 橋より 武蔵の 地 ふ 小 水辺 ふ

品川を 駅の名と 知る 毎
九日 沢戸ふ入て 芝の 梅林 舎 寺 軒 を 出て
いそがしい中 ゆゆ 地
武蔵 の 沢 ふ 高 の 事 北 弘 る 清
乳 ふ 寺 子 き 寺 宮 出 塔 上 寺 弘 寺 乃
義 寺 の 沢 ふ 沢 を 御殿山 の 梅 ハ 今 を 盛 なり
二 腰 を 出 る 御 江 戸 北 色 の 見 る 地
下 松 る 駅 籍 も 物 山 ふ 清
十日 高 ヶ 関 ふ 高 橋 田 向 院 浅 草 寺 ふ く
鶴 ハ や 百 幡 り 北 う け ま く へ 地
十日 海 苔 ヶ 原 横 ヶ 沢 角 田 河 を う ち 渡 り て 本 毎 ち
ま ち は ま く 首 法 を 少 く

梅うへてあるべきなれば　坪
今はうるはしくなれり　清
梅屋敷　長井戸五右衛門屋敷深山の中なる苔の古墳小
雲のはや塚も枝ひく　塚の影　坪

十一日　祇園社　聖堂を彫る山　主ある鶴岡八幡宮
より出るく山数八倍る所の中茶小路なる　数はより
けしかりそ怪む

十三日　十四日　物もくるくるたて　高野も紅葉
深る　十五日　そうしく人ゆきも

十六日　清水寺　東慶山を梅　周りゆりる陰ふ張り
くく園中の浴室なるを見る

裏五前　貴ふ及妙牡丹　坪

十七日　岩のいろいろ来るくるもの抱の屋き
志より出る奥へ出るくふなり

人くく　命もくるくふる　又　坪
もの宿ゆりかえりみ　振り　書
草加とつれる　ゆるはきまて　宗趣の古地なるありて
そ百八段くかき　深覚くる
友もの来くく　深さ西地ゆる　坪

十八日　坂東右前ときえくる刀祇川を　鈴中
兵の名る別ゆる小船ゆる　坪
下総の中四より　鹿ゆ山を右ふ　下野の小山
高田の部屋を　御本坊る　宿を　ゆ
番をくあきくれとも　ふつ　十九日　秋

七日 如来堂 御墓 般舟石 唯円墓
きる所 御墓の廣大なる 南無阿弥陀仏と
唱へ 又 白なんと 彼 宮村の
茶屋 石田 浴 姥ヶ井 今 陸 移り

移る 田 石 と 前 る 深 う 移 城
橋 町 志 岡 茶 屋 と 里 に 来 て 宇 治 の 宮 と 申
二十一日 四里 七 出 る 江 戸 始 移 を 立 て 日 光 の 御 山
へ 町 八 代 善 清 の 旅 宿 そ 出 め き 流 る 朱 塗 の 橋
流 き る 流 へ は 加 る 新 る 高 義 北 新 を 海 え て
峯 の 山 吹 も 美 重 北 史 を 流 ふ 秋 八 新 言 院 は 森 る
二十二日 東 興 大 桂 現 の 御 宮 る 系 海 なる 諸 や
陸 摂 と 云 も 恐 ある 一 出 と 、 免 海 り 一 ち も へ と も

矢立 有 て ゆ る 事 ね え う ひ の
おく 海 出 る 移 乃 木 末 や 安 北 北 城 城
陽 光 を 見 る も 学 一 日 地 光 り 清
西 陽 山 を 見 る う ふ 陽 て 不 生 と い ふ 里 る 海 る
二十三日 奈 次 の 篠 原 張 と と り て 大 田 原 る 出
二十四日 芦 野 を 立 ち 北 の 板 信 る 立 と 海 る
西 切 の 関 る 加 ゆ り る 板 う 移 城 城
関 の 明 神 て セ 申 ふ 元 よ う 陸 奥 と な と 白 川 の 関 も 岩 セ
出 女 の 家 出 や 家 乃 言 る 城
二十五日 大 隈 川 を 見 て く て 本 と 家 る 海 る 板 女 の ま る
二十六日 夜 明 て ら て く て 本 と 家 る 海 る 板 女 の ま る
な く 居 て う と ふ 昭 奇 を ひ と 川 姫 ふ 也 き と む

[illegible]

新八八ちらふ子[illegible]と[illegible]

[illegible]

[illegible]より[illegible]して来[illegible]

二時[illegible]る[illegible]のあるやちる 城

二十七日 きのふ[illegible]

二十八日 五ヶ辺より[illegible]

[illegible]せし 城

[illegible]を見る菜畑を[illegible]入る

刺[illegible]乃 [illegible]毎[illegible]い 奇異乃右[illegible]也

義[illegible]を云も[illegible] 城

[illegible]や 雲の色 城

[illegible]や松る[illegible]く下り[illegible] 清

[illegible]の[illegible]北[illegible]く[illegible]の[illegible]い[illegible]

下[illegible]笑[illegible]

九月甲[illegible]岩 鞍[illegible]城 [illegible]乃笑[illegible]

晦日 [illegible]を[illegible]中[illegible]北[illegible]名[illegible]川を[illegible]

[illegible]や[illegible]川 名 [illegible]川 清

[illegible]や川[illegible] 城

[illegible]より[illegible]かくり[illegible]城[illegible]壷の石[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の石階二百余[illegible]物を

[illegible]この千[illegible]北浦より[illegible]三里のあ[illegible]

[illegible]より八百八[illegible]後[illegible]実も 日本[illegible]一乃

[illegible]家[illegible]拙き筆をさ[illegible]五大[illegible]の檜八[illegible]

人[illegible]国[illegible]北[illegible]後[illegible]物[illegible]二石

余里比おほたうのきしをたどりて中里なる浦のほりまを
尋ね死ぬともすべし

雲居やふ計なるあをを見る　妙

四月朔日瑞岩寺ハ雲居禅師を中興とせ御忌るよ
り毎年嘆ハ激ハ海と早ふれたとて紙を[illegible]ふ乃
中をあのむ泥のうなれたをふハ東ゝを先武蔵
乃国の人てと余合を物語の男光棒のやうなれと
少とりかゝきを中ゆ海の京ゆ云ゆ[illegible]
暗くかゝるとなんさしたる海なんとゆもうたてゝ

松ゆやゆ人も知の目ゆ文衣　妙

る縁さの雲ゆ[illegible]ゆ初言ゆ　清

ちゆ海の之ひ先ゆもゆくゆなとゆる海ゆるもの

命ゆ光と恙なれとふ宝の世を形く如ゆ知ゆ
塩竈の里ゆ行ゆく半石神代乃塩釜を見ゆ四
乃形市ゆ雲山名余筋のとく面ゆく象海を摩ふ

東雲ゆ波や鏡ゆ[illegible]ゆと松乃末　清

仙台ゆ海ゆる之里を六丁ゆ[illegible]

二月　宗治の跡ゆ武隈の松を見ゆる

跡の余や之ゆ武隈の松を逢合せ　清

[illegible]雲ハ茅ゆ法ゆ[illegible]ゆ[illegible]

三月　鏡河の実ゆ向ゆ　妙　ゆ[illegible]

四月　安達ゆ原ゆ之ゆ温石ゆとふ所あり

温石をとふ人も知ゆ　妙　衣

五月　塩香山ゆ雲ゆ見ゆ見ゆ

祈願なる法師出たれん湯香山　凌

六月　能因法師　源三位頼政の云ふ所を思ひ出て

日照りもいさ白川の底なれし　城

七月　佐久の山　義遠川　ふる女坂いゆりき名こ

を月の友とし人佛一切こゝろ　城

八月　宇治川　白沢　宇治の家を　彼岸毎に義を引

きとゝりをとゝりを少て有るくくを尋ゆ

灌仏や前とハ思ひ合せも　城

九月　出羽の地蔵尊を拝まんと宗を踏て苔こ

を踏り来の根をとゝえて弘を法とふ

出羽や前の流さく裏木立　凌

十月　尾張とふ里は離て至尚あり世は婦こ

十月中旬の頃　を過て中仙道の本庄より出て野

の原赤木山へ不二の姿なり

十一月　佐野に宿　横川の御関　頼義山庵画像

見るひとしく奇蹟なりなり

陸奥と先は新古ふる所なる　城

十二日　別石寺とおそ下き山路の風りて碓氷

峠とふる熊野権現の社あり

如法くも源氏祈願の所　城

をちかた里とと先るい軽井沢と云り

伝説の所なり如先ら湯百人獄の名を百

重の姿は法くを　凌

十四日　追分より法光寺　ゆく　玄古の里こ

熊谷は北条とこゝの筋
ゝく猿の木はそふ
詣てゝ父母は遠ひなるゝ

御仏は彩うゝ桜や木下闇　坊
供の　　ゝとやうたるゝ蔭　清

戒檀院ゝりとゝふ
十五日　卯の刻御開帳
ねとれ　あいゝたらい
とハ　ゝ　ゝ　ゝ
乃ふは　ゝ　ゝ
川中　ゝ　ゝ

死出の山ひを観せゝと
仏をねむるゝ
何ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ

十二日　姥捨山の歌言葉を詠む　ゝ

降りゝ雨は古今北条を偲ん

姥石は嘆くゝ　ゝ　ゝ　ゝ　坊
捨ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　清

十七日　桔梗ゝ市は　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
十八日　木曽の山路の桜
うゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

義仲の墓
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

坊
清

福島の関を　女を　ゝ　ゝ　ゝ
十九日　命を　ゝ　ゝ　ゝ
かけゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

八十日の
ゝ

橋や蝙蝠の鳴く見北下　坊

阿川堂ヶ浦信太郎ヶ浦ヶ石 屏風石 孫兵衛の床と
名付たる所ハ工くるなせる假山のごとく
燈篭灯を孫兵の床に故也 清
小野ヶ浦 恵美手ヶ浦ヶ浦なる時ハ三流回し 近江の栗津ヶ丘なる
なるべんとハ也 きやう
九月 麻古女浦の雄滝雌滝 十石浦を踏の乳より
須濃田 扇坂 秋坂 いたこ式部の窟 海ヶ丘
二十一月 行桁の西の城 ヶ川も高
十三浦 そしてもの浦人面 名古屋三海八そ〻〻 みの
伊よりとく今浦りとくいふ所 海
十二月 鶴の丈なるものの見る比より みるのる名

あの本宮吹矢河之太山の博言く関を加海ヶ江中
の人を問ふ所ヶ海ヶ浦ヶ所ヶ膳を給
忘れ給ふ所ハ海ヶ浦ヶ所ヶ海ヶ浦ヶ所ヶ膳を給
蟬青山縣 笠書を右と左と見る
申の刻より小十八里 妨せても武蔵ヶ
物しふ所ヶ所ヶ所ヶ 妨
二十三日 海ヶ所ヶ所ヶ
けやうの所ヶ所ヶ 三里ヶ日 永の里ヶ
ひとり海ヶ所ヶ
白子 ヶ所ヶ ヶ所ヶ
海ヶ所ヶ入れの海ヶ

とも之ひさうめうさくさ、おう一きふ敬嬢るまて
ゐ酒の信ハ、又瘦骨ハ世ゝるなるをしらしひ
ふさて〜きんあ、まる
わゝ宿ゝ女　えひおゝりの世ゝ　妹
おゝつゝ妙ゝ嬢をせゝらる　清

京寺町二条こちえなや治兵衛板

(A)